コースの詳細は「OITA自然観察ガイド」としてまとめています。
ぜひ、ご覧ください。

Field Story

佐賀関（さがのせき）半島は、樅木（もみのき）山［484m］を頂点（ちょうてん）とする樅木山系（さんけい）が東へ延（の）びて突（つ）き出しているため、黒潮（くろしお）が洗う臼杵湾（うすきわん）側と冬季北西季節風が吹（ふ）き付ける別府湾（べっぷわん）側で環境が大きく変わります。臼杵湾に面した南岸はハマオモト、アコウが生育し、岩場にはウバメガシ群落が見られます。これと対称的（たいしょうてき）に北岸では、ハマビワ群落が海食崖（かいしょくがい）を覆（おお）うように帯状に分布しています。神崎（こうざき）海水浴場には、砂浜（すなはま）の水際（みずぎわ）近くにコウボウシバやコウボウムギが、その後方にはハマヒルガオ・ハマゴウ・ハマエンドウなどの海浜（かいひん）植物が群落を作っています。また、海食崖はハマビワ群落に覆われており、タブノキ・クロガネモチ・トベラ・ハマヒサカキなどの樹木（じゅもく）が生育しています。

Saganoseki Hantou
佐賀関半島

